

令和6年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価 <中間評価>

令和6年9月

◎1回答…より肯定的回答 ○1+2回答…肯定的回答 ※検証・改善策等は分掌部会ごとに検討済み

重点事項	具体的取組	現 状	評 価 の 観 点 【 】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判 定				アンケート結果より (R6. 7実施)
					1	%	1+2	%	
1 学力向上に向けた計画的実践	(1)学力向上に向けた授業改善等	「授業がわかりやすい」の肯定回答が高いが学力向上に直結していない。生徒が学びたいという課題の設定、自分の意見を持つことができる教師側の支援を行っている。	【生】授業がわかりやすい。 【保】学校は、わかりやすい授業や学力向上(学習内容の定着)に努めている。 【教】活用力(思考力・判断力・表現力)を高める指導を行っている。	A 40%・85%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A	48	A	98	▼授業がわかりやすいかの回答から、本校の学力向上に対する実践の様子が保護者へ伝わっている状況ではないことがわかる。発信の方法や機会の充実を図り、実施していかなければならない。また、それぞれの教科指導を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」や課題に対して身に付けた力で解決しようとする主体的な力を育てていきたい。
		学級経営を充実させ、「自由に発言できる学級の雰囲気」「積極的に発言する意識」に向けて取り組んでいく。	【生】授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。(R7 県目標値:95%) 【生】授業では、自分の考えを積極的に表現している。<カリ・マネの柱>	A 50%・95%以上 B 40%・85%以上 C 30%・75%以上 D 30%・75%未満	B	40	A	95	◎「考えを伝え合うことで学びの深まりや広がりを実感できた」という生徒の振り返りが多数見られた。 ▼今後、「書く・話す」活動を活発にし、表現しようとする態度を養えるよう、取り組んでいきたい。
	(2)校内研修の充実	今年度の研究の重点や方向性を示し、教科部会の強化、充実を進めている。	【教】教科部会に意欲的に参加している。	A 40%・70%以上 B 30%・60%以上 C 20%・50%以上 D 20%・50%未満	A	67	A	100	○年度当初に研究の方向性や共通実践等について校内研修を実施したことで、研究の進め方など、研究の重点を全教科でそろえていく意識が高まった
			【教】教科部会の内容が充実している。	A 40%・70%以上 B 30%・60%以上 C 20%・50%以上 D 20%・50%未満	A	62	A	100	
	(3)GIGAスクール構想の推進	教育活動すべてにおいて、ICT活用の意識が向上しているが、ねらいを達成させるための効果的な活用に向けて検証していく。	【教】授業中にICTを活用して指導することができた。(R7県目標値:100%)	A 40%・70%以上 B 30%・60%以上 C 20%・50%以上 D 20%・50%未満	B	35	A	90	○「個別最適な学び」と協働的な学びを一体的に充実させる為の有効的なツールとしてICT機器を活用していくことが大切であり、今後も検証が必要である。
	(4)学力向上ロードマップに基づく取組の推進	学力向上プランに基づいた指導を意識できるようになってきた。金沢教育事務所の重点事項を踏まえた授業実践に取り組んでいく。	【教】学力調査の結果を分析し、「学力向上プラン」に基づく指導を行っている。	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	D	25	A	90	▼昨年、一昨年とと大きな変化は見られない。引き続き「学力向上プラン」が日々の実践に生かされるよう指導を重ねていきたい。 また、質の高いまとめ、適用・活用までは至っておらず、今後実施する相互授業参観、学校訪問において、共通実践していきたい。
			【教】「まとめ・ふりかえり」、「適用・活用」を意識した授業実践に努めている	A 40%・90%以上 B 30%・80%以上 C 20%・70%以上 D 20%・70%未満	B	35	A	90	
			ネットルールの意識化と家庭学習を絡めて指導する必要がある。	【生】自分で計画を立てて勉強している。(R7 県目標値:75%)	A 40%・90%以上 B 30%・80%以上 C 20%・70%以上 D 20%・70%未満	B	35	B	81

令和6年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価 <中間評価>

令和6年9月

◎1回答…より肯定的回答 ○1+2回答…肯定的回答 ※検証・改善策等は分掌部会ごとに検討済み

重点事項	具体的取組	現 状	評 価 の 観 点 【 】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判 定				アンケート結果より (R6.7実施)	
					1	%	1+2	%		
2 生徒指導の充実	(1)積極的な生徒指導の推進(認めて、褒めて、伸ばす)	集団の質の向上へ繋げる具体的な取組を実践させる。	【生】自分には、よいところがあると思う。 (R7県目標値:80%)	A 40%・85%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A	44	A	88	OR5と比較して4P上昇した。引き続き、自己肯定感が高まるような積極的な生徒指導を進めていきたい。これまで以上に、教師の仕掛けや関わりを大切にしたい。	
	(2)いじめ・不登校への適切な対応	毎月の定期相談やいじめ調査、i-checkなどの取組を通して、生徒理解に努める。「ソレイユ」(校内教育支援センター)を全教職員で共通理解し運用していく。	【生】学校へ行くのが楽しい。 【生】いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	A 60%・95%以上 B 50%・90%以上 C 40%・85%以上 D 40%・85%未満	B	54	A	95	○「学校へ行くことが楽しい」と感じている生徒は多く、例年高い数値となっている。教師がこれまで以上に関わり、安全・安心な風土を作り上げていくことが大切である。 ▼月1回の振り返りや担任以外の教師との面談、icheckやエンカウンターの実施等、保護者に伝わる発信の仕方を工夫したい。	
		学校の取組を具体的なかつ積極的に発信していく。	【保】学校における、いじめの未然防止や早期発見のための取組が伝わってくる。	A 40%・85%以上 B 30%・80%以上 C 20%・70%以上 D 20%・70%未満	C	22	C	71		
	(3)基本的な生活習慣を高める指導の徹底 「時を守り、場を清め、礼を正す」	★時を守る (生徒・教職員の意識をもう一段引き上げる。)	【生】時間を守って行動し、良い態度で学校生活を送っている。 【生】かほく市ネットルールを心がけている。	A 70%・95%以上 B 60%・90%以上 C 50%・85%以上 D 50%・85%未満	D	43	A	96	○自分達で学校を良くしたいという思いは強く、委員会や学年の取組を通して意識を高めたい。 ▼例年、生徒と教員の数値ギャップが大きい項目である。生徒と教師の意識の差があり、教師の清掃指導の共通理解、共通実践を徹底したい。 ○「あいさつ日本一」の学校づくりに向けて取組を更に推進させていきたい。今後も、学校・保護者・地域の3つが連携し、「子どもをより良く育てる」を合い言葉に、連携していきたい。	
		★場を清める (清掃に関する生徒・教師間の意識格差が大きく黙勤清掃について再度共通理解をし進めていく。)	【生】黙勤清掃ができています。 【教】生徒は、黙勤清掃ができています。	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A	52	A	93		
		★礼を正す (あいさつ日本一への意識は徐々に高まってきた。場に応じた挨拶ができるよう意識を高めていく。)	【生】学校でしっかりとあいさつや会釈ができています。 【保】わが子は家庭であいさつをしている。 【教】生徒は、学校でしっかりとあいさつや会釈をしている。	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A	73	A	98		
	(4)教育相談の充実	毎月1回の定期相談の実施、担任以外の先生との定期相談を実施していく。困ったことがあったら、大人は助けてくれるという信頼関係を構築する。	【生】自分が困ったときに、悩みを聞いてくれたり、相談したりできる先生がいる。 【保】学校は相談や問い合わせに適切に応じてくれますか。 【教】生徒の努力したことを褒めたり、認めたりしていますか ※新規項目	A 40%・90%以上 B 35%・85%以上 C 30%・80%以上 D 30%・80%未満	A	45	B	85	OR5と比較して5P上昇した。新規項目として教師の結果も高い数値となっている。様々な取組を通して生徒理解に努め、相談したら先生は助けてくれるという信頼関係を構築していきたい。	
						C	31	C	76	
						A	55	A	100	

令和6年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価 <中間評価>

令和6年9月

◎1回答…より肯定的回答 ○1+2回答…肯定的回答 ※検証・改善策等は分掌部会ごとに検討済み

重点事項	具体的取組	現 状	評 価 の 観 点 【 】生徒、保護者、教職員アンケート	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判 定				アンケート結果より (R6.7実施)
					1	%	1+2	%	
3 信頼される学校づくり	(1)コミュニティ・スクールの推進	地域人材の教育効果は大きいと感じており、今年度においても地域の教育力の活用を進める。今年度は防災教育の実践、防災意識の向上を図っていく。	【教】学校は、地域の外部人材等を積極的に活用している。	A 50%・80%以上 B 40%・70%以上 C 30%・60%以上 D 30%・60%未満	C	30	A	95	○昨年度に引き続き、地域人材の活用を進めており、生徒への教育効果は大きいと感じている。後期は、防災学習を中心として、地域人材を活用し、より効果的な取組や実践を行っていききたい。
	(2)積極的な情報発信と学校公開	引き続き、ホームページや学校・学年だより等で学校の指導方針や生徒の様子を発信していく。(現在1日約1500~2000アクセス)	【保】学校だよりや学年だより、ホームページ等で学校の指導方針や子どもたちの様子が分かりやすく伝わってくる。	A 40%・90%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	B	36	A	92	○肯定回答率は、例年高い水準となっている。今後も、コドモンや学校ホームページを通して、分かりやすい情報発信に取り組んでいきたい。 ※ホームページカウント数: 1日約1500~1700アクセス
	(3)小中・中中連携の推進	小中9年間で子ども達を育てる意識を持ち、ニーズに合った研修を計画する。	【保】学校を信頼して子どもを預けている。 【教】学校は、小中連携を積極的に進めている。	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	C D	41 25	A B	95 80	○保護者からの信頼は概ね得られていると思われるが、引き続き、きめ細かな対応を心がけていきたい。
4 教員の人材育成	(1)若プロの計画的実践	今年度は、学年会を中心とした若プロを実施し、人材育成を計画的に進めていく。	【教】メンター・若手との定期懇談を充実したものにできた。(学期に1回実施)	A 60%・80%以上 B 50%・70%以上 C 40%・60%以上 D 40%・60%未満	D	25	A	85	○今年度はチームでのサポートを重点に置いて学年会単位で取り組んでいる。今後も、今日的な課題や令和の日本型教育に関することなど若手・ベテランと一緒に学ぶ機会を設定したい。 ★若手はベテランから学び、ベテランは若手を育てる意識を常に持つ。
	(2)ミドルリーダーの育成(組織力の強化)	計画的実践と結果の分析・検証を大切に取り組ませる。	【教】様々な取組について、教職員間の共通理解が図られていた。	A 50%・70%以上 B 40%・60%以上 C 30%・50%以上 D 30%・50%未満	D	20	A	70	▼生徒との時間を最大限に確保するために、各主任を中心として組織力の向上、さらにはC4thや端末を活用した効果的な取組を行っていく。
5 教職員多忙化改善に向けた取組の推進	(1)業務の効率化を図るための取組の推進	業務改善の意識は高まっている。部活動の休養日を1日追加し、検証をしていく。	【教】最終退校時間や定時退校日を意識して業務を進めるなど、「働き方改革」の推進に努めている。	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	B	40	A	90	○教員の意識は確実に高まっているが、(この3年間の1+2回答は90%以上)、引き続き学校行事の削減や業務の効率化を図っていくことが必要である。
	(2)部活動練習等の効率化	「部活動を通してよりよい人間」になることを目的として、効率的な練習を実施していく。	【教】部活動の練習時間について、常に効率化を考えて取り組んでいる。	A 50%・90%以上 B 45%・85%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満	C	40	A	95	○言い切り回答する教員は確実に増えてきている。今後、部活動の地域移行を視野に、地域と連携し生徒を育てていく意識を持つことが大切である。